

mykitchen4

「ゲストとの集いを楽しみたい」を
かなえるキッチン



夫婦や親子、友人と複数人で調理ができるキッチン。カウンターは、パーティのサブテーブルとしても活躍する。電化キッチンなので、簡単な手入れでいつもきれい。「ふたリストアイル」(パナホーム)

mykitchen3

「SOHO空間と兼用したい」をかなえるキッチン



モノトーンのコーディネートは、SOHOの打ち合わせスペースとしても違和感がない。コンパクトなキッチンは作業効率に優れ、調理も仕事も颯爽とこなす人を応援する。(クリナップ)

mykitchen5

「子供とのふれあいを大切に」をかなえるキッチン



対面式キッチンと、大きなダイニングテーブルを配置したDK。リビングや階段、吹き抜けとオープンなので、家族の会話が感じられ、親子の会話も弾む。「GENIUS Link-Age with Kids」(ミサワホーム)

mykitchen6

「料理にじっくりと取り組みたい」をかなえるキッチン



収納棚によってLDと緩やかに空間を仕切ったセミクローズドタイプのキッチン。LDの気配は感じるものの、適度な囲まれ感があり、料理に集中できる。家具のような洗練されたキッチンは、その中身も本格志向。ワークトップとワークテーブルは作業性抜群の高品質ステンレスを使用している。「S.S.」(クリナップ)



mykitchen2

「住まいに非日常的な空間がほしい」を
かなえるキッチン

キッチンライフ プランニング Style から

mykitchen1

「光と風を感じながら調理したい」を
かなえるキッチン



リビング・ダイニングとオープンであるだけでなく、3面に窓があるパノラマ・コートとつながる開放的なキッチン。大きな窓により、朝はたっぷりの光、昼間は庭の眺め、夕方には日暮れ、というように自然との一体感を味わいながら調理できる。「グランツユー・ピアーチェ」(セキスイハイム)

ダイニングテーブルの代わりに、リビング側にカウンターをつけたキッチン。ガラスのような質感のカウンターは、LED照明を灯すと美しさが際立ち、印象的なディナータイムを演出する。レストランやバーで感じる非日常的なときめきを自宅で味わえる。「CUISIA」(TOTO)

「将来」は、とりあえず
10年で区切る

家づくりは将来のライフスタイルの変化を見据えたうえで、とよくいわれます。しかし、実際にどのぐらい先の未来を視野に入ればよいものなのでしょうか？

キッチン空間に限って言えば、10年がひとつの目安になります。その根拠はコンロなど、キッチンの部品(設備)がおおむね10年で取り替え時期を迎えるため。どうなるかわからない数十年後に照準を合わせてつくり込むより、使用するのにはあえてこの先10年と割りきり、その後、暮らしに合わせて手を入れていくのが賢い方法といえるでしょう。

また、調理は誰がどんなふうに行っているのでしょうか？ 調理や後片付けを夫婦で協力して行うという人もいれば、ひとりで専念したいという人もいます。たとえば親子でおしゃべりしながら、子供の世話をしながら、また、本やパソコンを持ち込んでとか、ゲストも一緒に和気あいあいなどと、そのスタイルはさまざまです。

「娘にわが家の味を教えたい」「もっと夫や子供たちにも手伝ってほしい」など、希望を出し合ううちに、つくりたいキッチンのかたちが少しずつ見えてくるはずですよ。

家族の「食」スタイルを
観察してみよう

キッチンづくりは、まず家族の食のスタイルを客観的に見つめることから始めましょう。たとえば、食事は何時に、どんなものをついでいるでしょうか？ 朝・昼・晩に家族全員で食卓を囲む家庭もあれば、時間帯や食べるものが家族で異なる家庭もあるでしょう。「できるだけ手づくりの食卓を心がけている」や「平日は外食が多いが、休日は本格的な料理に挑戦する」「友人を招き、お酒を飲むのが楽しみ」など思いつくことを書き出していきましょう。